



総合内科の醍醐味が詰まった一冊

評者 | 上田剛士 洛和会丸太町病院副院長 / 救急・総合診療科

『総合内科対策本部 これってどうする!?』は、総合内科の現場で直面する多岐にわたる難症例や珍相談に対する具体的な対応策を紹介する書籍です。総合内科の魅力や奥深さを余すところなく伝える一冊であり、総合内科医としての臨床能力を高めるのにうってつけの書籍です。

総合内科とは、多様な症状や病態を総合的に診療する専門分野であり、まさに「医療の総合力」が問われる場です。本書では「微熱が続く」「リンパ節が腫れている」「両足がむくむ」「爪が黄色い」といった症例が次々と紹介され、それに対する具体的なアプローチが述べられています。総合内科の診療現場に必要な思考過程を鍛え、ピットフォールを知るにふさわしい症例が厳選されて書かれています。

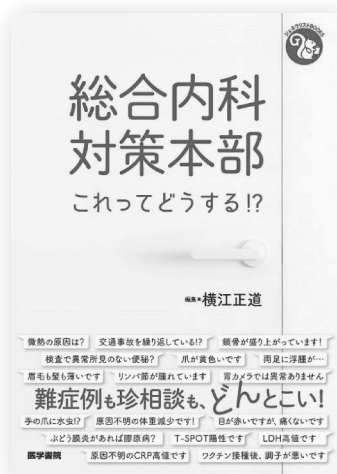
本書は症例ベース型式ですが、症例提示直後に「総合内科医の第一声」と、「対策本部としての初動態勢」が記されています。これらは優れた上級医の思考過程が反映された重要なセクションです。若手医師は自分と上級医の思考過程に違いがあるかをこの時点で確認するのもよいでしょう。

「これってどうする!? 総合内科」のセクションでは上級医の診察風景が再現されています。どのように病歴聴取をするか、身体診察では何を確認するかに注意して読み進めるとよいでしょう。

次に症例がどのように診断・管理されたかが紹介され、最後にわかりやすい解説が付けられています。症状編には32例が紹介されていますが、いずれの症例も「奇病」に偏った選択ではなく、明日出会うかもしれないものばかりです。検査編では、15症例を取り上げています。「LDHが高い時はどうする?」「低カリウム血症はカリウム補充だけではダメ?」「腫瘍マーカー高値の時どうする?」「抗核抗体80倍だったらどうする?」など、やはりいつ遭遇してもおかしくない症例ばかりです。そういった意味では総合内科医だけでなく、研修医や医学生、あるいは臓器別専門医であっても楽しく読み進めることができると思われます。

各症例の最後には「類似症例に対応するためのステップアップ」と「総合内科対策本部として次につながるtips」というセクションがあります。これらのセクションは、一つひとつの症例経験を今後の診療につながる知識に昇華させるために重要であり、読み終わるまで気が抜けない構成となっています。

総合内科の魅力や余すことなく伝える本書は、現場での経験を知識に変え、さらなる成長をめざす医師にとって貴重な一冊です。この本を手にとることで、総合内科の奥深さと面白さを感じながら、臨床力を磨いていただけることと幸いです。



《ジェネラリスト BOOKS》 総合内科対策本部 これってどうする!?

横江 正道=編

定価: 4,950 円(本体 4,500 円+税 10%)
A5・頁 372/医学書院/2024
[ISBN978-4-260-05659-5]